

(5) その他雑草の防除対策（アザミ類）

1) アザミ類に対する物理的・耕種的防除

アザミ類（アメリカオニアザミ・セイヨウトゲアザミ）はキク科の多年生植物であり、放牧地によく見かける雑草の一つです（写真 V-30：詳細は『令和5年営農改善資料』23～24 ページ参照）。

茎葉にとげがあるため、牛の嗜好性は著しく低く、また牛体を傷つけるため、とても厄介な雑草です。アザミ類の物理的・耕種的防除方法は、以下のものがあります。



写真 V-30 花をつけたアザミ類

2) 刈り取りや抜き取りの実施

8月の開花直後に花のついた茎を低刈りすることが効果的です（写真 V-31）。1個体当たり約 3,000 粒の種子を生産します。そのため、種子をつける前に“刈り取り”することで、種子生産を抑制できます。一度では枯死しないので、年に何度か刈り取る必要があります。

また、アザミ類の侵入が少ないうちには、“抜き取り”をすることで増殖を抑えられます。根気がいる作業ですが、草地を巡回し、アザミ類を抜き取ることをルーティーンにしている農業者もいます。

3) 追播の活用

幼植物（ロゼット）の定着を抑えるために、裸地を減らすことが大事です。放牧地では、排ふんや牛による踏圧が、裸地の要因となります。初期生育の良いイネ科牧草やマメ科牧草を追播することで、裸地を埋めることができます。



写真 V-31 裸地の少ない放牧地
（R5 年 10 月 27 日、別海町）

- ・ 8月に掃除刈りを実施
- ・ マメ科牧草が裸地を埋めているため、アザミ類の侵入があまり見られない

【ギシギシ類防除の副次的事例】

アザミ類に対する登録農薬はないため、アザミ類のみを処理する化学的防除方法はありません。しかし、ギシギシ類防除により副次的にアザミ類が減る事例があります。

バンベル-D による防除体系

- ・ マメ科牧草が少なく、ギシギシ類の多い草地に適用
- ・ 最終番草収穫後に散布する
- ・ 散布当年は放牧しない

※薬剤は正しく使用しましょう

バンベル-D液剤(2番草刈取後処理)散布日 9/13

アメリカオニアザミ

2週間後調査 9/26



ぐっ तरीしている

1ヶ月後調査 10/11



成長点が黒変している

2ヶ月後調査 11/12



植物体全体が黒変

図 V-12 アザミ類に対する事例（ホクレン調べ）